

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームかわかみ
(ユニット名)	山の家
所在地 (県・市町村名)	鹿児島市川上町1854-1
記入者名 (管理者)	秋野 由加里
記入日	平成 年 月 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・玄関、事務所に理念を掲げ常に意識出来るよう位置づけており、地域に根ざした事務所になるよう入居者だけでなく働き手も明るく助け合う共生の場として心がけている	○	・目配り、気配り、感謝の心
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・毎朝の朝礼で「皆で助け合い安心のある暮らし」の理念を指差し呼称にて確認し一日のケアに取り組んでいる	○	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	・面会時、毎月のだより等で家族には地域との共生の重要性をイベント時の相互的参加をした際など随時報告しており、同様に地域側にも町内会を始め、民生委員等を委員とした運営推進会議を行うたびに地域密着の必要性は伝えて理解を貰っている	○	
2. 地域との支えあい				
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	・天気の良い日は近所を散歩したり保育園に立ち寄ったり子供達が遊びに来てくれたりお互いに楽しいお付き合いが出来ている・挨拶簡単な会話はするがもっと日常的な付き合いに努めたい	○	・近所に買物に行く事もいつも見ている顔で無い人たちの付き合いも良いと思う
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・町内会に加入しているので地域の行事(夏祭り、棒踊り、運動会、他季節の行事等)への相互的参加をしており近くの保育園や施設との交流も併せて関わっている	○	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	・町内会の清掃活動に参加しており、様々な行事等へ参加している。地域の老人会とも接触を持って介護に関するQ&A等相談を受けたりした経験から、相談窓口の存在となり介護保険を要する要さないに関係なく信頼感を保てるよう努力している(非常時の避難場所としても活用してほしい旨、町内会へは名乗りを上げている)	○	
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・昨年度の結果からすぐ取り組めるようなもの、長期的項目に分け、改善に様々な事を取り込んで実践している。昨年に比べ改善できたという表現とまではいかないが着手し少しずつ形が出来た点も増えたように感じる	○	・職員会議で報告し、改善に向けて具体案の検討実践に繋げるための努力を続けたい
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・会議を設置して1年になり年間を通じて会議体で報告、意見徴収はしてきたので今年度は行事の様子や実際の活動状況の場を会議体とし色々な視野で見ってもらうため、主旨を変えてサービス向上のアドバイスを様々な方(地域包括支援センター、町内会長、民生委員、利用者家族を主に)からもらい、ホーム長、管理者、職員が参加する会議で評価の良かった事は更に考えて実施している	○	
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・数ヶ月に一度顔出しをしたり、地域包括支援センターをまわり現状の報告とセンターに問い合わせがある内容等を聞き、事業所で工夫できる点、持ち帰り情報提供しており、他市の介護相談員の受入れを行うとともに担当の部署などへも定期的に訪問している	○	
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	・前は全く無知識であった為、運営推進会議で支援センターや民生委員に意見、現状の説明をもらい、そのまま職員会議等で学ぶ機会を設け皆で情報共有している	○	・より深いところまで情報収集していく努力が必要
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・職員会議、勉強会でも何度も確認する点であり職員一人ひとりが捉える入居者の姿を皆で話し合い、行動だけでなく言動、環境、人的環境がその人に無理強い、虐待になっていないか、言葉の暴力等ないか、丁寧に見直ししている	○	・勉強会やミーティング等を実施し、高齢者虐待防止法に関する理解を浸透させる・自分で入居者の方に向けた言動を省みて正しいかどうか調べる

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・介護、あるいは介護保険に詳しい方、そうでない方々であるので基本的な契約の説明だけでなく入居者の生活暦の聞き取りをしながらこれまでの環境、人的交流などを情報に入手しながら不安、疑問等に丁寧に答えて十分納得していただくようしており、安心して聞ける雰囲気作りは整えている		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・介護相談員の受入れ等を積極的に行い、入居者が我々に話してくれているのだという慢心をなくすよう本人からの訴えを聞くだけでなく様々な視野から本人の本心を探るようにしている。また、直接的ではなく間接的な訴えも出来る様、意見箱を設置するなど工夫している	○	・利用者の言葉や態度からその思いを察する努力をする
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	・ご家族の来訪時は声掛けにより暮らしぶり等をお話し、毎月ホーム便りを作成し利用者の健康状態、他様子をはじめ預かり金の報告は必ず行い、職員の離職における周知は特にしていないが就職については顔写真で呈示し目に付くよう掲示するなど家族に公表している	○	・使った時の確認、現金出納帳を明示する(随時)
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・家族等の率直な意見や不満、苦情を前向きに活かす姿勢でおり、コミュニケーションノート設置により様々な点で思いを書いていただけるよう声掛けしており、家族の方からの意見は隠さず速やかに報告しその後反映させている。不備な点などは常時面会時に有無を確認するなど心がけている	○	・情報はしっかりと伝達すべきであり小さな事が運営の良し悪しに影響する
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・スタッフ会議や個別に運営方針で希望する点、改善すべき点、話し合う場を設けており内容によっては職員会議で常に投げかけ意見集約することもある	○	・更に活かし充実したものにし何事にも努めたい
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	・家族によっては病院受診の付き添いや遠方までの買出しを依頼する方もある為、常時いる人数とは別に職員の配置をすることもあり、また職員の急な休み、イベント等により不足した場合電話連絡等で人員確保は出来ている	○	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・前回の評価以降、家族の介護や看護を余儀なくし急遽離職するなどの異動がみられたがなるべく入居者との馴染みを大切にすべく職員面接の際には一つ一つの出会いと別れが何らかの環境の変化を及ぼすことを皆に周知させ、その都度ダメージを最小にとどめるよう検討しながら配慮に徹している	○	・模擬家族として生活を共にしているのでその後のフォロー、サポート等しっかりやりたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・公的機関での研修だけでなく法人内で基本的な内容から職員同士が学びあえる勉強の場を設け、技術力だけでなく様々な面での向上を図りグループホーム間交流を月一のペースでさせてもらっている。毎回の研修で満遍なく職員に平等な機会を与えている。固定概念や先入観にとらわれず視野が広がりとても良い取り組みであると意見が出ている	○	・全職員が共有できるようにする・今後も研修、全般積極的に参加したい
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・今年に入りグループホーム間交流を積極的に行い、月一の訪問で色々な分野を学び、勉強会だけでなくカンファレンスや検討会で当ホームでは未だ確立していない点を一から情報収集したり、逆に先方からも刺激的なアイデアを捻出していると聞き及び相互的向上の場となっている	○	・職員間の交流、交換を行い互いに良いところを取り入れサービスに努める
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	・悩み等分かち合えるようクッション的立場での役割の者が聞き相談に乗ったり、皆で協力し楽しくするために食事会をするなど親睦を図っている		・十分に話を聞いて、よいところを引き出す
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	・勤務態度や姿勢を見るだけでなく会議での発言内容や取得資格など情報を背景に休憩時間や息抜きのときに話しかけ世間話などから本人の意向を聞き取るようにしている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・焦点情報(私ができること、出来ないこと)シートを利用し機会を作って引き出し急に信頼関係は築けない上、生活の環境が変わる事が少なくとも不憫なところ不安なところ出てくるので聞き取りも兼ねて粘り強く本人と話しをする時間を設け、こちらが様子伺いし利用者もよく観察されているので会話により共通の趣味等呈示し機会を築き上げていく	○	・その人に合ったケアをしていく・居室の掃除、片付けを行いそのときにお話する様心がける・余裕を持って会話し理解したい。信頼関係がないとその上の介護は難しい
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・ご面会に来られたとき、生活習慣、今までの生活状況を聴き、なるべく同じように暮らせるように工夫し、みなし指定の方、入院中で近いうちに入所する方様々な状況の中で環境が変わる本人に付随する家族も何らかの不安を抱えているので地道に話を聞き相談に乗るようしている	○	・意思を出される方には今までの生活を同じくしている

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・面談の際に、自立支援を推奨するグループホームよりもリハビリや医療体制の整った施設を利用した方が本人の状態に適しているとみなした場合はその旨説明し、家族の悩みや疑問等に一つ一つ応え要望等を聞き何を支援すべきかを話し合っている	○	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・利用者や家族が納得するまでホームの見学をして頂き希望によっては体験宿泊も行って、環境の変化からくるダメージを少しでも軽減できるよう生活暦を本人、かつ家族から聞き取り徐々に慣れられるよう声掛けの仕方、場面を選び穏やかな生活を送れるようにし、最初からあれもこれもではなく本人の状態を確認しながらの支援に徹している	○	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・傾聴を心がけ信頼していただけるよう努めている・職員から歩み寄る事が大切であり過程の中での家族として本人の訴えや表情から一緒に悩み考え喜びも哀しみも分かちよう過ごし、教えてもらう事学ぶべき事を吸収していく	○	・お互いが協働しながら生活が出来るように間柄になれるよう場面作りや声掛けをしていきたいと思う・会話あつての支えあいであり会話をして相手をよく知る事でそれにより自然と喜怒哀楽が共に出来る
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・良い事だけでなく入居者の状態を家族の一員として悩み良い方向に改善するための状況や取り組みを報告し一緒に考えていただくようにして信頼関係を築くようにしている	○	
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・現在の姿だけでなく過去の入居者の生活スタイルを本人だけでなく家族から様々な思い出と共に話してもらうよう声掛けし、絆を深められるよう支援している	○	・もっと希望を理想を語りながらそれを理解し反映させたい
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・昔の話を聞いたり育った地域の話をしたり支援に努めている・仲の良いとき不穏な状況は早く察知しうまく気付けるよう心がけている	○	
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・様々な方が共同生活だから我慢、と押さえつけるのではなく各人のストレスや悩みを聞きお互いが仲良く分担し合える役割をこなせるよう支援し利用者同士話をしている時はなんとなく側にいたり話に加わり揉め事のない様注意し声掛けやフォローをしつつ、孤立を防ぎ利用者同士の関係が良好であり続けるよう見守っている	○	・遊学時間で皆で楽しく過ごす事で利用者同士の親睦を図る

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	・転院された場合、もしくは他界された場合とあるが各人がホームで過ごしその家族ともひと時は同じ家族の一員として接してきたわけなので時候の挨拶や電話や手紙で近況を聞いたり入院中であればご本人を見舞って顔出しし少しでも本人に刺激があるよう努めている	○	・終了後も会話の機会に恵まれ話をするがその時だけの関係で終らせずご縁を大切にしていきたい
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・一人ひとりの個性を知り遊学の時間やその他の行事でも本人の参加する意欲を大切に無理強いないように努めている ・コミュニケーションを図り希望も近い形で叶うよう協力支援は行うが難しい場合は本人の納得のいくまで話を粘り強く聞き意向の把握に努めている	○	・意思疎通が困難な方には、ご家族などから情報を得るようにしたい ・どのように生活してこられたのか等もっと掘り下げて配慮しその人らしさを導き出したい
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・基本情報としての生活歴、本人に関する内容は見方によっては捉え方も異なるので一人に対して最低3人の目で分析を行い、何度もアセスメントを作成し全体像としてその人を把握するに至っている	○	・習慣は簡単に変えられず安易に替えるべきでもないと思うのでゆっくり見守りながら進みたい
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・パターン化した生活の方もいれば気候や心的ストレスでバラつきがみられる方もいるので一様に決め付けるのではなく本人の訴えや表情、言動を見ながら努め個々を尊重し生活の質の向上を目指していけるよう努めている	○	・出来るだけ語らいの場を作りたい入浴時、思い出話を聞いたりします ・毎日のケア記録により引継ぎを行い又、朝礼等での引継ぎにより現状を把握しその都度サービスに努める ・実際に起こった事妄想の上での事、何が原因で今の状態にあるのかしっかり把握した上でフォローサポートに努めたい
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・チームケアのあり方に関してユニット会議を週2回行う事により統一の取れた介護を行うようにしている ・問題点や改善案などカンファレンスを行っている ・ユニット会議で検討しているがスタッフ一人ひとりの意識等により差が感じられるのでもっと意識改革に努めたい	○	・掲示板を利用し、職員出勤のとき必ず見るように。 ・各ユニットで週2回様々な課題で会議を行い意見交換や介護の見直し等について話し合っている
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・本人の体調次第では期間終了を待たず内容変更もあるのでユニット毎に随時カンファレンスを継続して行ってもらい様子を観ている	○	・ユニット会議で入居者の方に反映していき、情報の共有化をもう少し徹底し努めたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・ケア記録を誰でも人目で変化が判り易いよう、様式の改良を重ね、恒常的な事以外の点をより見逃さず、皆で情報共有できるよう工夫をしている	○	・その人の日が出来、その人が喜ばれるので持続したい、事故の無いように行動したい
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・コミュニケーションノート設置により要望等が書きやすい状況にし、要望があった場合は迅速に対策を練り希望に近い方向確認を取りながら進めている		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・運営推進会議においても民生委員に参加協力済みで本人の希望に応じて第三者的立場の方へ助言を貰ったりボランティアの受入れで音楽会、踊り、習字等行いレクリエーション時の講師派遣依頼なども行っている。他、消防訓練や医療講習で地域の機関等の協力を得ている	○	
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・施設間交流をする中で本人の希望に近づけるよう話し合い相互的協力の下、ケアに活用支援をしている		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	・今のところ現入居者において成年後見人等の必要な方はいないが、既に包括支援センターを通じてそのようなケースに備えられるよう情報交換は行っているがまだまだ勉強をし情報収集、受け入れ態勢の強化を図る必要はある		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・入居の際に当ホームの主治医の話は行うが、家族或いは本人がかかりつけ医を継続したい等の要望がある場合は家族と受診における支援と先方の医師との情報共有を行っている	○	・医療訓練を始め、薬害がらつきようによって消せるなど身近な話題を話して下さる

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>・今のところ主治医は専門ではないが他事業所とも連携を取りながら認知症の勉強を重ね、職員も一律のケアが出来るように努めている</p>	
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>・看護職員を配置し常時バイタルの変動や異変に気を配れるよう努めている</p>	○
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>・状況に合わせて病院や家族とも連絡を取り、極力家族の意向に合わせて先方のソーシャルワーカーと情報交換を行いながら早期退院の為の支援や退院後のケアに向けて準備を整えられるよう検討を重ねている</p>	○ ・もっと内容等を充実させ、活かせればと思う
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>・入居者の日常をかかりつけ医が診察する上で重度化や終末期の覚悟を話すべく、家族においては医師立会いの元の話し合いをし、状態変動がないよう心がけている</p>	○
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>・状態の微妙な変化にも気付けるようケアの記録の仕方、申し送り(伝達)方法を工夫し、チームケアが浸透できるよう努め、悪化した場合の備えを考慮しつつ危険予知を怠らず支援するようしているが、最終的なホームの方針が固まっていない。</p>	○ ・情報の共有化を徹底し「ここまではできる、すべき」というラインを明確にし対応できれば良いと思う
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>・変化に対して精神的に理解できないまま混乱し、家族に対しての不信感を募らせる方もいるので、日々声掛け、本人の納得する話し方で気持ちを落ち着かせ、少しずつ環境になれるよう心と向き合えるよう努めている</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・日々のケアの中で声掛けをするように心がけている。写真も承諾を貰って対応している・一人ひとりへの言葉遣いや傷つけないよう心がけている・優しい言葉、尊敬且つ、固苦しくない言葉遣いを気をつけている	○ ・日誌等目の届かないよう気をつける(上から布をかぶし目の前で書かない)
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	・利用者の希望を少しでも叶えてあげられるように生活を見ながら支援したい・入所者の目線の高さで話をしている・側に寄り添い話を聞いてあげる・否定をしないようにしている	○ ・目上から言わないようにしている。常に入所者の目の高さで話をするようにしている・側で見守りながら色々な方向から話をもっていく
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・決まりごとだけを優先するのではなくその人の希望を聞くようにしている・無理強いせずなるべく入所者の理解を得て、その日のレクリエーションなどを行うようにしている・こちらにあわすのではなく声掛けし話を聞き無理させない様になっている	○ ・その人の日と決め手希望に沿って支援をしている・入所者になるべく楽しんで参加できるように支援したい
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	・理容の美容は本人の希望を聞きながらホームに来ていただいている・髪だけではなく顔そりまでしてもらっている方もいる・本人の臨む店に行っている方も何人かある・月一ペースで美顔マッサージも取り入れ少しでも小奇麗にする大切さを思い出す機会を作ってさりげなく支援している	○ ・本人が望むところにいけるよう努めている・職員が入所者にお洒落をすること、化粧、身だしなみを促すよう身なりに気をつけている。本人が望めば希望する店にお連れしている・利用者の要望に応じ家族の方にも出来ることでよいので協力して欲しい
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・調理、配膳、下膳はしていただいている・職員が分かれてテーブルにつきゆっくり召し上がっていただき一斉に片付けしていただくよう終るまで座って様子を観ている	○ ・準備をしながら楽しく食事が出来るようにしている・定期的に料理の日、お菓子作りの日を作り一緒に作っている
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	・おやつなどは本人が言われたときに楽しめるよう支援している(10時、3時)・個人のおやつ等ホームで預かり買物表を作り目を通してさしあげるようにしている	○ ・本人が食べたいものなどをおやつなどに取り入れている(手作り)・職員の役割をよく理解し日々早出(支持者)が冷蔵庫や表を把握し指示徹底する

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・排泄は出来る時は声掛けにて行っていただく。オムツも時間を観ながら確認をしている・パット使用や感覚の短い入所者にはなるべく声掛けをしている・時折失敗され下着汚染ある方、下洗い後洗濯機へ、オムツの方交換の都度洗浄し喜ばれている	○	・居室からあまり出られない入所者のところにも何度も声掛けしトイレに促す・トイレの声掛けも他の人にわからないよう心かける
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・一日おきの入浴とし夏はシャワー浴も実施している・なるべく入所者が入りやすいような声掛けをし気持ちよかったと思われるような入浴介助の仕方をする・全員希望通りは難しいが気分を害さないようにしている	○	・無理強いせず何度か声掛けしなるべく入浴していただくようにする。自分で出来るような入所者には自分でしていただくようにする・一人ひとりの動作をもう少し観察し出来るところは自分でしていただく
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・ホールで休息したり眠れるようにしている・その方の生活習慣やその時々状況に応じ声掛け休息か移民できるように支援に心がけている・昼夜逆転をなるべく避けるために、昼間は軽く休憩程度に寝てもらい夜熟睡できるようホールで過ごす時間を多く楽しんでもらう	○	・夜勤の巡視のときなどなるべく睡眠の妨げにならないように巡視している・眠れなくホールに出てこられた時はゆっくり相手をしてあげる
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・利用者は庭掃除、パズル、マッサージ器の利用で思い思い過ごしている・月々の行事や季節の行事、毎日のレクリエーションなどを行っている・遊学等皆さんのお好みに応じて一緒に楽しんでいる。手伝いのお好きな方に積極的な申し出には快く手伝い頼み、助かりますのお礼の言葉で本人もやる気と満足感を得られている様子	○	・ドライブに行ったり季節の花を観にいたりなどしている。入所者が出来そうなことなどは個々に声掛けを行っている・その人それぞれ違うので一人ひとりをよく知る、皆が情報を共有しあう
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・利用者の方々に管理できる方は自分達でもっており、買物など職員と行かれる	○	・その人の日を作って買物、食事に出かけるようにしている
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・その人の希望に沿って外に出るようしている(買物、食事)・天気の良い日には中庭散歩やホーム外に出かけている	○	・一人ひとりの希望にそって色々と計画していきたい・入所者の意見をなるべく聞き、その方の希望になるべく沿うようにしていきたい・行かれる方、いかれない方の偏りがない様に皆さんに伺う・一人だけでは淋しい方もあるので気の合う人と一緒にでかけるよう心がけている
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・職員と一緒に個別に出かけるようにしている・そうめん流しや食事会など行事によって家族を招待している	○	・毎月とまでは行かないが入所者から希望があればなるべく希望にかなうようにしている・家族からの要望を聞いてみるのもいいのではないかと

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・季節物(書中見舞い、年賀状)は必ず各人の色が出るよう支援し、家族の電話は利用者が自由に出来るようにしてある・本人が希望した場合には掛けていただき、掛かってきた場合も取り次ぐ・事務室や居室でも電話していただいている	○	・たよりの際に一言書いてもらうのも良いのではないか
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・家族などが来られても居心地よく過ごせるように工夫している・居室のドアのところに家族の方からの要望を受けられる様にコミュニケーションノートを設置している	○	・あまり訪問できない家族もあるので家族の日(その人にとって)をしていけたらと思う
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・会議で話し合いを行い、拘束をしないケアに取り組んでいる	○	・世間での情報を皆で共有し勉強会を増やす
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・玄関、中庭など自由に出入り出来る様にしている(安全面にも気をつけながら)・居室は本人が鍵をかけない限り居室の開閉は自由である・本人の意思でいつでも中庭や玄関付近の散歩等職員の見守りで安全面に心配りし自由に出入りされている	○	・出来るだけ入所者が窮屈な思いをしないで済むように部屋の行き来もなるべく自由に出来るようにしている
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・利用者への見守りを確実に行うようにする。行動をしっかりと把握して様子を確認する	○	・居室に居る人にもう少し目を向けて何か話題を作り閉じこもりにならないようにする
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・本人の状態に応じ注意を要するときは付き添い支援できている・薬、洗剤、危険物はカーテンで隠している	○	・ある程度理解して下さる方においては自分保管をさせている・倉庫や事務室(薬)あるところに近づけないようにする
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・医療講習会などを行い事故防止の方法を学んでいくようにしている・何度も取り出すときに確認する。名前と置く場所も再確認・一人ひとりに応じ細心の注意心がけ事故防止に努めている	○	・早番、日勤の人で日付と入所者の場所を何度も確認する

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・夜勤のときの連絡方法などより密に詰め、医療講習会を行う・入所者の情報を記したファイルを常に目の届くところに置いている・医師や消防署の指導を受けている	○	・対処の仕方など詳しく書かれたファイルにその都度その対処法が書き込まれている・事故発生時、応急手当、対応の訓練を一ヶ月一回講習をして欲しい
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・定期的な消防訓練を行っている・推進会議や町内会の方との交流を図っている	○	・町内の行事にもっと参加したい
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	・入居者家族の希望を支援して元気に過ごせるように話し合いをしていきたい・ホームの便りを月一でお出ししている・ケアマネや医師を通じて家族と話し合っている	○	・ホームでの入所者の様子を書いたものを家族の下にお送りしている・共有化をはかり一人ひとりが自覚し介護にあたる
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・利用者の体調は普段より把握している。バイタルチェックを行い職員間で共有している・本人の体調観察により気付いたときの情報報告し対応できている・入居者の体調変化は顔色でわかるので気付いたら声掛けしたり様子伺いで対応している	○	・部屋によくいる入所者のところには何度も様子伺いをしている・3人が(日勤帯)同じ考えでいつも危機感をもって取り組む
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・職員間でも一人ひとりの薬の使用の目的など全員に理解はされていない・本人へ手渡し服薬していただき、誤薬のないように努めている	△	・薬の効能力の把握をしていきたい・薬を飲ませ間違いをしないよう名前と顔、日付等確認する
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・遊学時間に体操、中庭の散歩などで体を動かすように工夫している・自然排便のない方、水分補給や腹部マッサージおすすめしたり体操や散歩声掛けしている	○	・トイレの掃除やトイレに入られた際、便が出たかどうかの確認と声掛け
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・歯磨きの手伝いをしている・毎食後も声掛け、一緒に付き添い口腔ケア支援している	○	・朝昼夜と口腔ケアをしている・声掛けと確認を徹底する

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・毎日記録をしている・一週間の献立があり栄養バランス配分はとれている・食べる量や水分量がチェック表に記録している・水分量のチェック、各自ペットボトルに水を用意したりお茶の好きな方はポットに湯を入れている	○	・テーブルの上に食事の時にポットを置くようにしている(飲んだ量が把握できるように)・酢を使った料理や煮物や魚など高齢者の方が望むような料理を出すように心がけている・水分は入所者になるべく声掛けをして取ってもらっている
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	・消毒を行っている(玄関口などに消毒液、マスクなどを置いている)・手洗い等指導を受け、他の事も書面で目を通すよう回覧している・職員も風邪等引いたときは咳を気にされるのでマスク着用の実施を	○	・手洗いがいの徹底化・小さな事でも気付いたらすぐに連絡し早く処置をするよう心がけている・山のホールも消毒用の手洗い器を設置したい
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・夕食から昼食はそのときに使い切るような材料を使っている・冷蔵庫内の整備清潔に努めている・賞味期限、消費期限を守っている	○	・玄関に張り紙等がしている・食器類をなるべく乾燥機にかける
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・玄関は出入りしやすいように花などを置いたり明るい感じにしている・花や職員の顔が掲示されている・行事の際のホーム内での入所者の様子を写真掲示している・季節ごとのお花が植えてあり玄関に花を活けたりされている	○	・毎日玄関の掃除をしっかりとおり花を枯らすことのないようにしている・外から来た方や家族の方がわかるようにホームの紹介などを配置している・何か起きた時、大きな車が出入りできるよういつも空けておく
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に光が入るように窓はその場所場所に合ったつくりになっており、他共用スペースも皆でゆっくりと利用できるようバリアフリー化されている	○	・カーテンを開けっ放しにしない、風通しをよくする・みな好みの音楽流したら良いのでは・カレンダー替えたり季節感のする置物などおくようにしている
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・ソファを利用されている(皆様の顔が見れるところにある)・ソファでの雑談やマッサージなど思い思いに過ごされている	○	・度々テーブルや椅子の位置を替え気分転換を図っている

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・ホールも使いやすくなっているがテレビなども部屋にある方は心地よく過ごされている・柵の位置を変えたり入所者の状況によって実施している・思い思いにテレビ冷蔵庫仏壇ダンスベッドを持ち込まれ居心地よく暮らしている・今まで使っていたラジカセやテーブル、椅子使っていた	○	・もう少し工夫をこらした手作り作品を飾ったりしたい
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	・お部屋でのニオイなどは換気を行っている。温度調節をしっかり行っている・窓の開放(網戸がついている)につとめ自然な風の換気に努め温度調節(外気温との大きな差がないよう)配慮している・朝一回は必ず窓を開け冷暖房調節している	○	・年寄りなので薄着をしている為、一枚多く羽織らせたりスカートをはいた方にはズボンをはく等の声掛けをし温度調節を行う・自分の判断で聞いてくれない方もあるので説得の方法を学んでいきたい
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・内部は手すりがあり、歩行が出来るようにおいている・ベランダより自由に中庭に出られるように(安全に出入りできるよう)バリアフリーになっている・床に物をおかず広々と利用していただく	○	・平行棒をもう少し活かしていきたい・転倒防止する為に居室ホールについてもいつも目配りする(指差し呼称)
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	・お部屋のドアのところにわかるようにしている、お風呂など曜日がわからないのは居室に張り紙をしている・一人ひとりの力を活かして介助し、自立して暮らせるように工夫している	○	・失敗した出来事、良かったこと、一つ一つ見落とさずとりあげ早急に解決できるよう話し合う
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	・中庭があり日中の散歩などに利用している・休息場所を作り庭、玄関で歩かれた後涼み、休んでいただいている	○	・ベランダ、玄関側も活動できるようにしたい・年に何度か庭を使ってテントを張り食事をしていただいている

V. サービスの成果に関する項目			
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・昨年に比べ様々な改善点が見られると思われる(金銭面の報告、職員就職告知、職員の研修、質の向上のための他グループホームとの施設間交流、個別ケアに注視した“その人の日”の設置・行事も年々内容の濃いものになり、前回のデータ、反省点が次回へのステップ、糧となり少しずつ良い方向に向かっている) ・遊学時間を利用し(口腔ケア、健康体操、転倒予防体操、嚥下体操)習字、女性人気の美顔マッサージ、居室からホールへ出てきていただき閉じこもり予防、和気あいあいと話していただく家庭的な雰囲気の中で生活していただいている・共有する空間は中庭があり汚染されていない空気に広々と静かな環境、広人とプライバシーの守れる居室、一人ひとりの状態を把握し優しさと思いやりを持って支援している・季節ごとにそうめん流し、六月灯、お花見、ドライブ等、家族とのコミュニケーションのとれないところをホームが届かないところまで優しい気持ちで受け入れ、楽しんでいただけていると思う・毎回の勉強会等の中で、個人の知識、経験を皆で共有し日々向上するよう努めている